

こがらしの ふく ばん

小川未明

青空文庫

夜が^{よる} ながく なりました。おかあさんは おしごとを なさ
つて います。その そばで、きょうだい は 火^ひばちに あたり
ながら、くりを たべて いました。

「リンリン リンって、なんの 音^{おと}だろう。」

ふいに、正^{しょう}ちゃん は あたまを あげました。

「ねずみが おかってへ でて、なべに さわったのでしよう。」
と、おかあさんは おつしやいました。

「武^{たけ}ちゃんが 三^{さん}りん車^{しゃ}に のって いるのよ。」
と、つね子^こさんが いいました。

「いまじぶん、だれが あそんで いるものか。」

しばらくすると、また、「リンリン　リン。」と、いう音おとが、かすかに　きこえました。

「ほら。」

「ほんとうだわ。」

おかあさんと　三人にんが　とを　あけて、そとを　ながめました。こがらしが　ふいて、すみわたった　いい　月夜つきよでした。

かどの　たばこやの　まえに　ちようちんの　火ひが　みえて、
じんりきしゃ人力車が　みちを　きいて　いる　ようすです。そのうち　こ
 ちらへ　かけだして　くると、リンリン　リンと、しんぼうに
 はめた　かねの　わが　なりました。

かさを　かぶった　おじいさんの　車夫しやふです。そして　車くるまの

上^{うえ}には、それはきれいな およめさんが のって いました。

さむく なつて、三人^{にん}は とを しめました。

「あれは おばけで ない？」

と、正^{しょう}ちゃんが いました。

「きつと きつねよ。」

と、つね子^こさんが いました。

「いいえ、あの おじいさんは、いつ も ていしやばの まえに いる おじいさんです。」

と、おかあさんが おつしやいました。

きようだいは とこの 中^{なか}へ はいりました。その とき、また うちの まえを リンリン リンと、とおる 音^{おと}が しまし

た。いま 車くるまやさんが、かえるのです。

あとは、こがらしの こえが きこえました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 16」講談社

1978（昭和53）年2月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：Juki

2012年7月16日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

こがらしの ふく ばん

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>